

奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 12 月 19 日（木）午後 5 時から午後 6 時まで	
開催場所	奈良市役所中央棟 5 階 キャンベラの間	
議題	1 市長挨拶 2 出席者紹介 3 実行委員会会則（案）について 4 役員等について 5 奈良市アートプロジェクト基本構想（案）について 6 事業計画（案）について 7 その他	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、青木監事、萩原委員、中室委員 【計 5 人出席】
	事務局	澤野井市民活動部長、松田市民活動部次長、谷田文化振興課長、吉川主査、小谷係長、荒益、西崎、佐藤（以上文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	●奈良市アートプロジェクト実行委員会会則を承認。 ●今年度の事業については基本構想をより深めながら進めていく。 ●30 年度以降の方向性については事業計画に基づき、今後検討を進める。	
担当課	市民活動部文化振興課	

議事の内容

- 1 市長挨拶（代理：向井副市長）
- 2 出席者紹介
 - ・出席されている委員の紹介を 50 音順に行い、一言ずつご挨拶いただいた。
- 3 実行委員会会則（案）について
 - ・事務局より会則および傍聴要領について説明を行い、承認された。
 - ・傍聴については希望者無し。
- 4 役員等について
 - ・会則に基づき、委員長および議長は仲川委員が務める。
 - ・過半数の出席により本日の会議が成立していることを議長から説明。
 - ・委員長の指名により、佐々木委員が副委員長に、青木委員が監事に就任することを決定。
- 5 奈良市アートプロジェクト基本構想（案）について
 - ・基本構想（案）について事務局より説明し、承認された。

- ・説明の概要は以下のとおり
 - ・昨年の「東アジア文化都市 2016 奈良市」では奈良の圧倒的な場の力を発信し、文化的な強みをもつ都市としてアピール出来た。一過性のイベントとすることなく、その趣旨を引き継ぎ、ダイレクトかつコンパクトに伝えられる事業を行う。
 - ・現代の課題をアートを通して掘り起こす機会としたい。
 - ・名称は古都奈良から新たな価値の創造を発信することを目指して、COTO ART CREATE（こと・あーとくりえいと）とする。
 - ・時期、対象、場所をしばらくこんでアートプロジェクトを実施する。
 - ・取組の過程を発信することを重視する。
 - ・実施体制は実行委員会による実施。事業の実行にあたってはプロジェクトリーダーを指名する。事務局は奈良市市民活動部。
 - ・今後、専門家の意見も聞きながら、基本構想についても肉付けをしていきたい。

- ・委員からの意見は以下のとおり

佐々木副委員長

- ・中国では、10月の東アジア文化都市と欧州文化首都の連携を考えるシンポジウムなど欧州文化首都との交流も視野にいたった戦略が行われているが、日本にはそういった大戦略がない。奈良はシルクロードとの関係もあり、そういった視点を見出しやすい。東アジア文化都市として選ばれてきた日中韓12都市の連携や、それを越えて欧州とも連携するような大きな視野を持つても良いと思う。
- ・アートプロジェクトについて、トップアーティストだけでなく地元から新進気鋭のアーティストを養成してほしい。高校生と創る演劇も評価が高かったのも、そういう地元から作り上げていくものを積み上げ、そこに中韓との繋がりを考えてもらえると良い。
- ・次年度以降の構想として2020年の先も含めて考えて欲しい。

6 平成29年度事業計画（案）について

- ・平成29年度事業計画（案）について事務局より説明し、承認された。

説明の概要は以下のとおり。

- ・様々な表現をしやすい、考える機会になりやすいであろう、現代アート と 演劇 の2本柱で行う。
- ・それぞれの部門にプロジェクトリーダーを指名して開催。現代アートは西尾美也氏。演劇は田上豊氏。

【現代アート】

①制作展示

- ・チェジョンファさんに市役所でアートをしてもらう。平昌パラリンピックのアートディレクターをされているのでその時期に合わせて、文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックの精神を奈良からも発信していく。
- ・ネット配信を通して広く奈良を発信する。

②ワークショップ

- ・幼児、青少年、高齢者、障がい者など様々な人に作品の制作に関わってもらい、社会の課題に気づき、共有する機会とする。

③アートディスカッションイベント

- ・何故、奈良で作品を制作しようと思ったか、アートを通じて社会問題を考える契機となるディスカッ

ションを行う。また、ネット配信を行い広く共有する。

【演劇】

- ▶ 昨年行った平田オリザさん監修の「高校生と創る演劇」をベースに、参加対象を中学生まで広げて、自身を表現し、可能性を広げてもらう場とする。
- ▶ 1月に平田オリザさんによるワークショップ、2月3、4日にオーディション、3月30日公演。
- ▶ 演劇に興味のない人にも参加してもらえると良い。
- ▶ 会場はならまちセンター。これから、演劇の拠点になっていくと良いと思う。

【平成30年度以降の事業について】

- ▶ 基本的には現代アートと演劇の構成でいきたいと思うが、意見をいただいて、相談しながら決めていきたい。
- ▶ 予算規模としては1600万円程度。
- ▶ 中韓との青少年交流事業とも上手く関連付けて事業を展開させていきたい。
- ▶ 平成30年度のスケジュールに対応させて、事業の時期や内容についてもアドバイスを欲しい。

・委員からの意見は以下のとおり

萩原委員

- ▶ 奈良市は東西の軸がはっきりした都市なので、奈良の都市の姿・都市軸を考えて事業を展開すると奈良の形が浮かび上がる。何年かの事業を経て、都市軸が浮かび上がり事業が展開されると良いと思う。
- ▶ 駅のすぐ近くに大きな芝生が広がっているのは珍しい。街中にある自然の空間を活用出来ると良い。

中室委員

- ▶ 演劇を中学生まで広げたことは良いと思う。表現を出来るだけの感性を中学生も持っている。
- ▶ 奈良に定着させるためには、ならまちセンターを演劇活動の拠点にしていくコンセプトも良い。子どもたちの明確な目標となる事業や拠点になると良い。

仲川委員長

- ▶ ならまちセンターに演劇の拠点としての位置づけがはっきりすると他の事業の展開もしやすくなる。中学生の学習課程に入っている身体表現等も含めて、そういったものの拠点になる方向づけも良いと思う。
- ▶ 自然と人が集まり、活動拠点となるような場所になると面白い。
- ▶ 芸術監督のような人を置くと偏りが生じる危惧もあるが、人を引っ張ってこられるような魅力あふれる人がいるとよい。

佐々木副委員長

- ▶ 芸術監督を置くことによる偏りについては、COTO ART CREATEの方針に合致する人ならば問題ない。その方針をぶれさせないことが重要。
- ▶ 市民から提示される社会課題もある。住民からの提案を取り込んでいくと、アートと社会課題の繋がりがより定着しやすいと思う。
- ▶ 事業を継続していく上で拠点施設は重要。関係する情報が全て集まる場所になると良い。拠点として確立されると、他の事業も展開しやすくなる。

- ・平田さんのアーティストインレジデンスが豊岡で定着し、自身の拠点もそちらに移すことを計画している。今までは、人材が東京へ流出するだけだったが、劇団やアーティストをこちらへ引っ張ってきて定住させるのも視野に入れることも出来ると思う。
- ・奈良に連れて来て面白いとしたら、舞踏等も視野に入れると良い。Ex.神戸のダンスボックス

平成 30 年度以降のスケジュール・展望について

佐々木副委員長

- ・日仏友好 160 周年「ジャポニスム 2018」 奈良は様々な形で関われると思う。
※現時点で、おん祭りや興福寺の仏像が展示される予定
- ・イコモスで河野先生がアジア人で初めて会長になった関係で、イコモスの総会を日本に誘致する動きが起こる可能性有。奈良に誘致も出来るのではないかな。
- ・西安が東アジア文化都市の候補都市に上がっていた。西安との連携も考えていってはどうか。シルクロードを意識して、パートナー都市だけでなく複数の都市と連携することも視野に入れると良い。
- ・中国の青島、長沙、泉州、韓国の光州、大邱がユネスコの創造都市に認定された。東アジア文化都市に選定された都市はそのような戦略をもっている。では、奈良はどうするのか、文化事業を通じ、様々な都市と繋がっていく中で、ユネスコの創造都市に何年後にどのようにアプローチするのか考えて欲しい。
- ・京都で 2019 年に世界博物館会議がある。京都に集まった人たちを奈良に呼ぶような連携プログラムを考えてみても良いと思う。

仲川委員長

- ・周年事業に合わせると企画しやすい。例えばキャンベラ市との姉妹都市提携 25 周年などはちょうど企画が進んでいる。
- ・3 年間程度を見通して、イベントを行なったり、関連付ける等して企画していくと良いと思う。

7 その他

- ・1 月の委員会については改めて事務局より連絡する。